

記入日（西暦）2024年3月31日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

## 医療薬学学術小委員会 研究活動報告書（最終報告）

### 1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	医療薬学学術第4小委員会
研究テーマ	医療現場における薬物相互作用マネジメント能力育成に関する研究

### 2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	ヨネザワ アツシ
	氏名	米澤 淳
	所属施設の名称 (正式名称)	慶應義塾大学

構成委員	氏名	所属
	大野能之	東京大学医学部附属病院薬剤部
	樋坂章博	千葉大学薬学部
	増田純一	国立国際医療研究センター病院薬剤部
	木村文司	神戸大学医学部附属病院薬剤部
	百賢二	昭和大学薬学部
	岩本卓也	三重大学医学部附属病院薬剤部
	伊藤清美	武蔵野大学薬学部

### 3. 研究の目的

「医薬品開発と適正な情報提供のための薬物相互作用ガイドライン」が発出され、薬物相互作用に起因する副作用の発現や有効性の低下が回避され、医薬品のベネフィットとリスクのバランスを最適化し、適正使用が促進されることが期待される。医療薬学学術第一小委員会では、このガイドライン等に基づき薬物相互作用マネジメントに関する手引きの作成を行ってきた。相互作用の組み合わせは無限であり、常に更新が必要となることから、手引きの内容は具体的な薬物の例示ではなく考え方の解説とした。しかし、会員へのアンケートの結果では、より具体的ですぐに実用可能な手引きが切望され、その乖離が課題である。また、多剤併用やスペシャルポピュレーションにおける薬物相互作用に関して情報が不足し、基盤データの収集も必要である。本申請では、薬物相互作用のエビデンス創出と活用促進に関する取り組みを実施し、医療現場での薬物相互作用マネジメント推進に寄与すること、さらにそれを客観的に評価することを目的とする。

さらに、COVID-19 治療薬パキロビッドが特例承認され、薬物相互作用マネジメントが全国で課題となっ

た。そこで学術第4小委員会では、「パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き」を作成・公表してきた。本手引きの更新ならびに同様の薬剤の手引き作成を継続して行う。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

#### 4-1. 研究活動の総括

当初は、Workshopなどの開催による実例に基づく薬物相互作用マネジメントの学習の場を提供するとともに、アンケート調査等により実態調査とWorkshopの効果を調べる予定であった。しかし、COVID-19の影響で、計画していた第4回医療薬学教育セミナー等は中止となった。第30回日本医療薬学会年会でのシンポジウムはオンデマンドで配信できたが、その他の講演会等を企画することが難しく、執筆活動等を通じて医療現場での薬物相互作用マネジメント推進に寄与してきた。

2022年2月にCOVID-19治療薬パキロビッド<sup>®</sup>が特例承認され薬物相互作用マネジメントが課題となった。そこで我々の委員会では、「パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き 第1版(2022年2月28日)」を作成し、医療薬学会のホームページで公開してきた。さらに、情報の更新に伴い本手引きの改定を行うとともに、2022年11月に緊急承認された経口COVID-19治療ゾコーバ<sup>®</sup>についても「ゾコーバ(エンソトレルビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き 第1版(2023年1月19日)」を公開してきた。この手引きは、一般社団法人日本感染症学会「COVID-19に対する薬物治療の考え方」でも引用されるなど、COVID-19治療において重要な役割を果たした。また、医療薬学会年会でのシンポジウムを企画して、相互作用マネジメントの教育・研究活動を進めてきた。

これらの経験から、薬剤師による薬物相互作用マネジメントが、医療において重要な役割を果たしていることを再認識した。また、薬物相互作用マネジメントの手引きは、薬剤師の活躍の一助となることから、医療薬学会においてこのような活動を継続していくことの重要性が示唆された。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

#### 4-2. 研究業績(学会発表、論文等)

- ゾコーバ(エンソトレルビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き—第1版—(2023年1月19日)
- パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き—第1.2版—(2023年6月21日)
- パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き—第1.1版—(2022年6月16日)
- パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き—第1版—(2022年2月28日)
- 第33回日本医療薬学会年会 シンポジウム「いま、あらためて薬物相互作用マネジメントを議論しよう～手引き・症例検討・展望～」
- 第31回日本医療薬学会年会 シンポジウム「個別化医療において活用される薬物動態の臨床および基礎研究」(日本薬剤学会 FG との共催シンポジウム)
- 第30回日本医療薬学会年会 (Web開催) シンポジウム「医療現場における薬物相互作用へのかわり方ガイド」を活用したマネジメント推進」(学術第四小委員会)

- 千葉大学医学部附属病院薬剤部、千葉大学大学院薬学研究院・薬友会 共催 千葉大学薬剤師卒後教育研修講座 (第 115 回)(共催)
- 日本医薬品情報学会 令和元年度第 3 回 JASDI フォーラム 臨床における薬物相互作用評価 (共催)

注) 本研究活動の成果に関する学会発表や論文情報を記載すること。本報告書の提出後、本研究の成果を以て得られた新たな研究業績(学会発表や論文等)が生じた際には、本項目を更新した報告書を提出すること。枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

#### 5. 共同研究、他学会・団体からの支援 (COI 申告を含む)

該当なし

注) 提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

#### 6. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況 (倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む)

該当なし

注) 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。